



江東区

TOKO TOKO
まちあるき

芭蕉が住み、奥の細道紀行へ出立した地である「深川」。
芭蕉が生きた頃の「深川」に思いを馳せながら足跡をたどります。

深川芭蕉コース

都営地下鉄森下駅は
北緯35度41分17.86秒
東経139度47分53.81秒
でござる。

距離
約2km
目安所要時間
約120分



- 江東区文化観光ガイド
～区内の無料まちあるきガイドサービス～
江東区文化観光ガイド事務局 ☎03-6458-7410
受付時間：9時～17時(土・日・祝日・年末年始を除く)
- 深川東京モダン館
～江東区の観光・まちあるき案内所～
住所：江東区門前仲町1-19-15 ☎03-5639-1776
開館時間：10時～18時(金・土は19時まで)
休館日：月曜(祝日の場合翌営業日)及び年末年始

①深川東京モダン館

昭和7年(1932)竣工の「旧東京市深川食堂」の外観イメージを色濃く残して改修し、平成21年10月にオープンしました。国登録有形文化財(建造物)です。タイル張りの階段まわり、床や壁面には戦渦にも耐えた建設当時の丸窓に特長があります。1階は江東区の観光・まちあるき案内スペース、2階は多目的スペースとなっています。

②採茶庵跡(さいとあんあと)

濡縁に腰掛けた旅姿の芭蕉像が迎えてくれるこのあたりに、芭蕉の高弟・杉山杉風(すぎやまさんふう)の別荘がありました。芭蕉は、元禄2年(1689)の2月末に芭蕉庵から採茶庵に移り、約1か月後の3月27日早朝、曾良を伴い仙台堀から千住へ、「奥の細道」の長旅に出立しました。46歳の時のことです。幕府御用の魚問屋を営んでいた杉風(鯉屋市兵衛)は、芭蕉の経済的支援者でした。絵を狩野昌運に学び、その腕はほとんど専門家の域に達していました。

③臨川寺(りんせんじ)

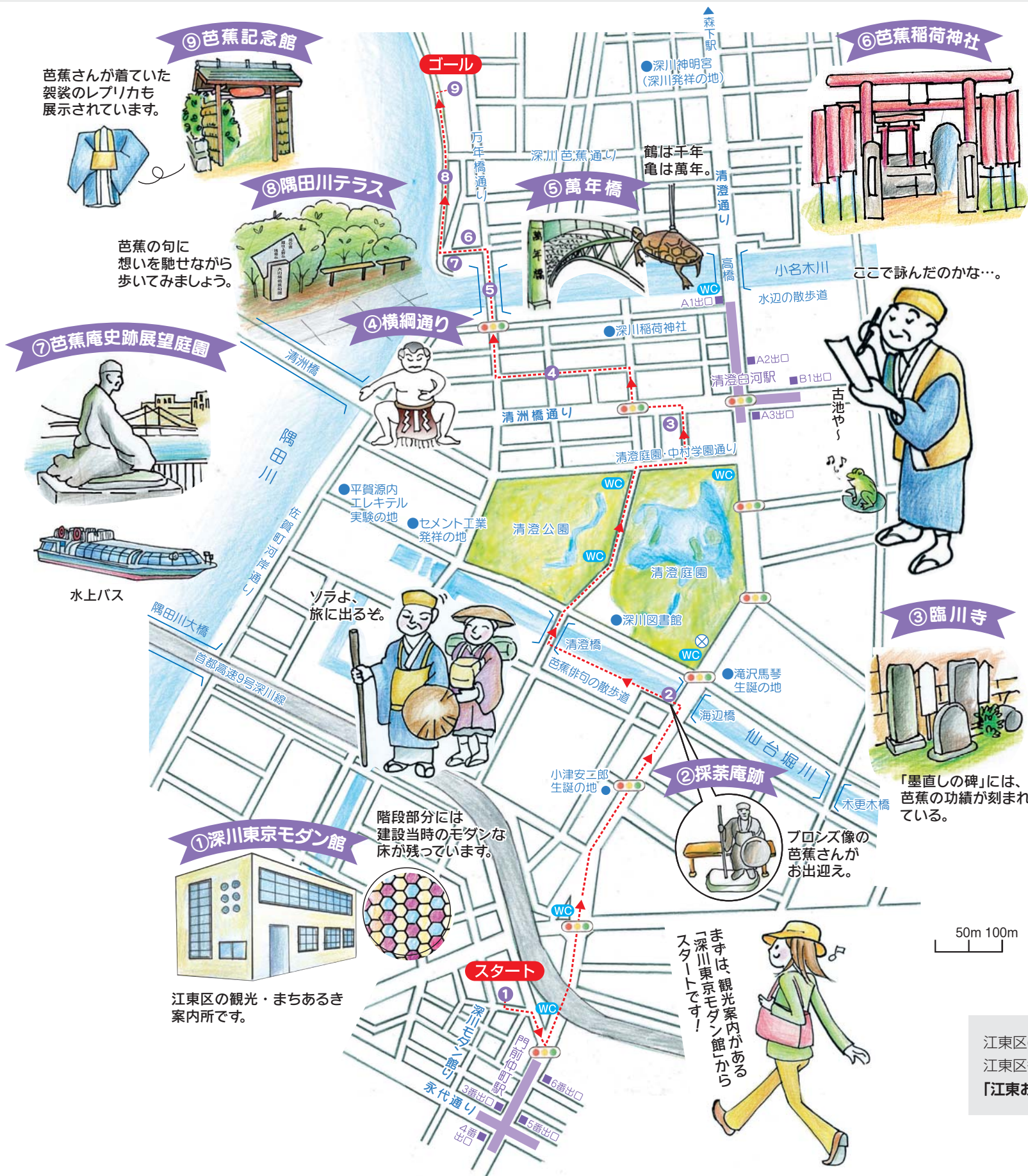
仏頂禅師が寛文の頃(1661～72)に創立しました(当時は臨川庵)。深川に庵(泊船堂)を定め、まだ宗房と称していた芭蕉は仏頂禅師と親交し、禅師との参禅問答から得たとされる俳号が「桃青」、そののち天和元年(1681)、38歳の時に「芭蕉」となります。蕉門の各務支考(かがみしこう)が京都双林寺に建立した鏡塔の墨跡を、俳人神谷玄武坊が写した「墨直しの碑」などが境内にあります。

④横綱通り

この一角には五つの相撲部屋があり、地元では「横綱通り」と呼ばれています。清洲橋通りから入ると「鏝山部屋」(元関脇・寺尾)、「尾車部屋」(元大関・琴風)、「大鵬道場 大嶽部屋」(元十両・大竜)、「山響部屋」(元前頭・巖雄)、「高田川部屋」(元関脇・安芸乃島)と続きます。タイミングによっては、お相撲さんの姿や干されている廻し(まわし)などに出会えるかもしれません。

⑤万年橋

江戸時代、富士山がきれいに見える名所として知られ、葛飾北斎の「富嶽三十六景・深川万年橋下」や歌川広重の「名所江戸百景・深川万年橋」に描かれた有名な橋です。創架時の詳細は不明ですが、江東区で最も古い橋の一つで、延宝8年(1680)の江戸絵図には「元番所のはし」として記載されています。この名は、小名木川が隅田川と通じる出入り口にあり、寛文元年(1661)まで橋の北詰に船番所が置かれていたことに由来するものです。現在の鋼橋は昭和5年(1930)に震災復興橋として架けられたものです。



⑥芭蕉稲荷神社

松尾芭蕉が「古池や 蛙飛び込む 水の音」の句を吟じた芭蕉庵があった場所ではないかとされています。俳句の弟子・杉山杉風が提供した草庵で、のちの文久2年(1862)の切絵図には、紀州藩下屋敷に「芭蕉庵・古跡庭中二有」と記されています。元禄2年(1689)、奥の細道の旅に出る芭蕉は庵を離れる直前に「草の戸も 住替わる代ぞ ひなの家」の句を柱に残したと記しています。大正6年(1917)、この地を襲った高潮水害の後に「(伝)芭蕉遺愛の石の蛙」が出土し、地元の人々の尽力により「芭蕉稲荷神社」として祀られました。大正10年、東京府の旧跡に指定されています。

⑦芭蕉庵史跡展望庭園

平成7年に芭蕉記念館の分館として、隅田川と小名木川の合流地点に建設されました。台上から川面を見渡す芭蕉像(杉山杉風が描いた肖像画を立体化)は、日中には入口の方を、夕方には清洲橋方向へと自動でほぼ90度向きを変え、ライトアップされた姿で隅田川を行く船を見送ります。一方の壁沿いには、江戸時代の和本に描かれた芭蕉をめぐるエピソードを伝える展示板や、俳号の由来を思わせる芭蕉の樹など、癒しの空間が広がっています。

⑧隅田川テラス

川の流れに沿った遊歩道を歩くのは心地よいものです。ベンチで一休みして、川沿いの景色も堪能できます。隅田川東岸のテラスには「大川端芭蕉句選」として、9句の句碑プレートが点々と連なっています。全て芭蕉が芭蕉庵で詠んだ句で、年代順にならんでいて上流側が新しい句となっています。句碑を前に佇んでみるのも、水辺の散歩の一興と言えるでしょう。

⑨芭蕉記念館

松尾芭蕉は延宝8年(1680)、江戸日本橋から深川の草庵に移り住み、この庵を拠点に新しい俳諧活動を展開しました。このゆかりの地、芭蕉稲荷神社に多くの芭蕉ファンが集まったこともあり、芭蕉の業績を顕彰することを目的として、昭和56年(1981)に開館された資料館です。展示室には、芭蕉の真筆をはじめとする俳文関連の貴重な資料や「(伝)芭蕉遺愛の石の蛙」も。庭園には三井親和の書による「古池や……」句碑の模書句碑や遊行柳、築山には芭蕉庵を模した祠など、「芭蕉さん」を身近に感じられる空気がいっぱいの世界です。

江東区の観光情報やアクセス方法については、江東区観光協会の公式 Web サイト「江東おでかけ情報局」をご覧ください。

